

令和6年度 丹波篠山市立西紀南小学校 学習や生活に関する向上プラン

本校は、全国学力・学習状況調査(6年生)と丹波篠山市学力・生活習慣状況調査(5年生)、生活習慣状況調査(3・4年)の結果をもとに授業等の改善を行うため、「学習や生活に関する学力向上プラン」を作成しています。学力の定着状況をご確認いただき、子どもたちの学習・生活習慣の改善、さらに学校の教育活動にご支援をお願いします。

全体的な状況及び課題

【全国学力・学習状況調査および丹波篠山市学力・生活習慣状況調査の結果の概要】

西紀南小学校全体の結果について

6年生対象に行われた全国学力・学習状況調査(国・算)、5年生対象で行われた丹波篠山市学力状況調査(国・算)では、どちらの学年も教科や単元によって目標値及び全国平均を上回る結果と下回る結果が出ており、得意な分野と不得意な分野の差が見られました。

国語科の結果について

5年生については、話し合いの内容を聞き取り、話し手の伝えたいことを捉える問題や自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして文章を書く問題の正答率が高い結果になっています。また、6年生については、既習学年の漢字を正しく書く問題や問題文の人物の立場になり話し方を変えた理由として適切なものを選択する問題の正答率が高い結果になっています。

しかし、5年生については、連用修飾語などの言葉の品詞を理解する問題について課題が見られました。また、6年生については、資料を関連付けながら条件に合わせて自分の考えを書く問題や同音異義語の漢字を使い分けて書く問題に課題が見られました。

算数科の結果について

5年生については、帯分数を仮分数に直して計算する問題や図形領域の垂直の意味を理解する問題の正答率が高い結果になっています。また、6年生は、図形領域の直方体の見取り図について正しく点や辺を選択する問題や五角柱の面の数を答え、その理由を底面や側面に着目して書く問題の正答率が高い結果となっています。

しかし、5年生については、それぞれ1目盛りあたりの数値の大きさが異なる二つの折れ線グラフの目盛りを正しく読み取り、それぞれのグラフの変わり方について正しく記述する問題や、向かい合う辺の長さが等しいという平行四辺形の条件をコンパス使って作図をする技能問題に課題が見られました。

6年生については、家から学校までの道のりが等しく、かかった時間がそれぞれ違う二人の速さについて求める問題において、どちらが速いかを計算をもとに判断し、その理由を書く思考力を問われる問題に課題が見られました。

学力・生活習慣状況調査の結果について

学力・生活習慣状況調査(3~6年実施)では、学級風土において、学級の絆についてのポイントが高いことがわかりました。友達のよいところを伝えることができる児童や困っている友達に対して助けようとする学級の雰囲気を感じている児童が多いことがわかりました。

生活習慣では毎日の朝食や早寝早起きをはじめ、全体的に規則正しい生活をおくることができているという結果がでて一方で、自分で朝起きたり、明日の用意を前日に用意したりすることが難しい児童も一定数いることから、生活習慣の定着に差が見られます。本校では、みなみん生活習慣としてご家庭と手を携え、子どもたちの生活を見つめていく取組を進めており、今後も継続していきたいと思っております。

学力調査の結果をもとに「国語科」「算数科」においてこれまでの学力向上の取組を見つめ直し、学校として「授業の工夫」・「基礎的内容の習得」について、結果の分析を通して『子どもたちに必要な力は何か』、その力をつけるために『どのように授業を改善していけばよいのか』という授業改善の視点を検討し、今後に生かしていきます。

国語科

「漢字を活用する力」「複数の情報を関連付けながら思考し、自分の考えを表現する力」「条件に合わせて、自分の考えをまとめる力」「新しい課題を自分事として取り組む力」が身につくよう指導していきます。

- ・「漢字を活用する力」を育むために、文字の形を覚えるだけでなく、一つの漢字から熟語をたくさん見つける学習活動や同音異義語を調べる学習活動を取り入れた授業づくりをしていきます。
- ・「複数の情報を関連付けながら思考し、自分の考えを表現する力」を育むために、複数の資料や情報と情報を関係づけて思考する課題に取り組みます。
- ・「条件に合わせて、自分の考えをまとめる力」を育むために、文章を書く際に字数制限を設けたり、キーワードを設定したりしながら自分の考えをまとめる学習活動に取り組みます。
- ・「新しい課題を自分事として取り組む力」を育むために、学ぶ目的を意識して自分が学んだことを振り返り、学びを自覚しながら主体的に学ぶ授業づくりをしていきます。

算数科

「基礎的、基本的な計算をする力」「問題を丁寧に読み取り、題意を理解する力」「数量感覚や概念理解をする力」「自分の言葉で説明したり、伝えたりする力」が身につくよう指導していきます。

- ・「基礎的、基本的な計算をする力」を育むために、基本的な四則計算を低学年から確実に定着させていきます。
- ・「問題を丁寧に読み取り、題意を理解する力」を育むために、算数的な表現（絵、図、テープ、数直線、言葉の式など）を中心にした問題解決学習をすすめ、自力解決ができる学習に取り組みます。
- ・「数量感覚や概念理解をする力」を育むために、具体物と数量を正しく結びつける学習活動や既習学年で学んだことを生かして問題を解く学習活動に取り組みます。
- ・「自分の言葉で説明したり、伝えたりする力」を育むために、提示された説明の仕方を使って、自分で説明を記述する問題を丁寧に扱い、情報を関連づけて記述する学習に繰り返し取り組みます。

学習・生活習慣について

これまで同様、子どもたちの学習や生活習慣が崩れないよう家庭との連携を密に図っていきます。学期に1度の「みなみん生活週間」の実施による生活の見直しを行い、「心」と「習慣」の両方から子どもたちの変化に気付いていく取組を進めます。そして、児童会や委員会活動、係活動、行事などで達成感や充実感をもつ経験を積み重ね、課題解決能力を育むとともに、子どもたち一人一人が社会的・職業的自立に向け、必要な力を育てるキャリア教育を推進していきます、子どもたちの日々の努力の積み重ねが自信につながるよう、一層学力と生活習慣の向上に努めていきます。

【保護者の皆様へのお願い】

本プランを提案したねらいは、児童の実態や課題を明確にし、課題解決に向けて学校と家庭が連携して学力・生活習慣の向上に取り組むことにあります。

- ・学力や基本的な生活習慣の確立には良い結果も出ていますので、引き続き励ましの声かけをよろしくお願いいたします。
- ・自主学習を活用し、予習や復習をしっかりと行うことや読書や音読習慣を身に付けていけるよう、ご家庭でもご協力をお願いいたします。

今後も学校と家庭が連携し、子どもたちのさらなる成長を見守っていきたくと考えております。